

平成25年度版

地域活動事例集

中央地域



岡崎市

はじめに

岡崎市では、47ある小学校区ごとに学区総代会、学区社会教育委員会、学区福祉委員会など各分野に特化した組織を作り、各学区が自立して地域活動を行っています。このような学区ごとに実施している地域活動を市として支援する目的で、平成23年度から市内7支所及び市民協働推進課において地域と担当課の調整や委託業務の地域負担の軽減を行ってきました。

こうした地域活動の支援の一つとして、各学区において先進的に取り組んでいる事例を広く他学区に紹介し、学区における新たな取組や現在行っている取組を充実させるための参考にしていただくことで、各学区における地域活動がより活発化していくことを願い、本事例集を作成いたしました。

今回は、モデル的に岡崎市を8つの地域に分けたうちの一つである中央地域に属する12学区の13事例を紹介しております。本事例集を御活用いただくことで、学区の地域活動が促進され、地域のつながりや連携が強化されるなど、各学区において地域活動の一助となれば幸いです。

平成26年3月

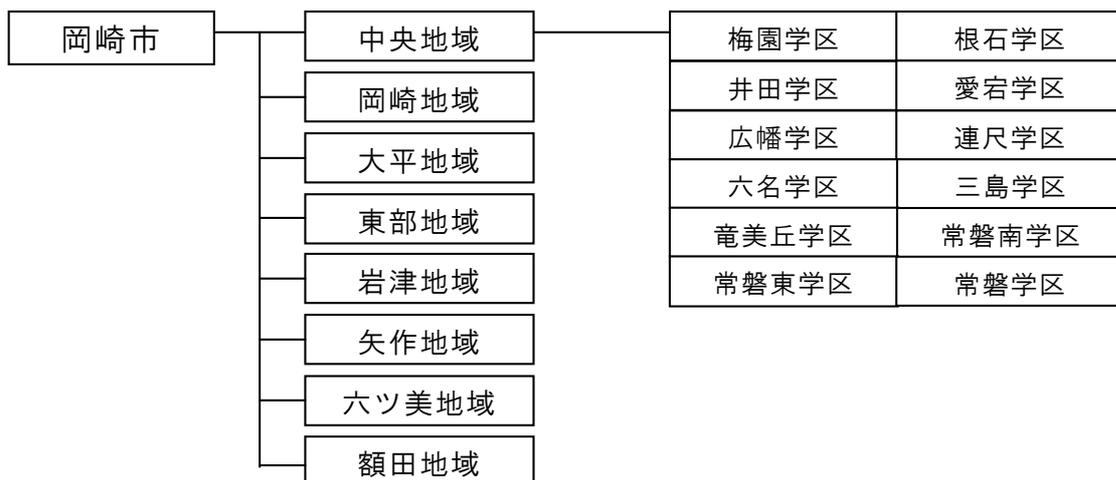
岡崎市（中央地域）の紹介

岡崎市は、支所管内ごとに大きく8つの地域に分かれており、さらに8つの地域は47の小学校区に分かれています。8つの地域のうちの1つである中央地域には、12の小学校区があり、学区ごとに学区総代会長を中心に、それぞれの地域性に合わせた活動を行っています。

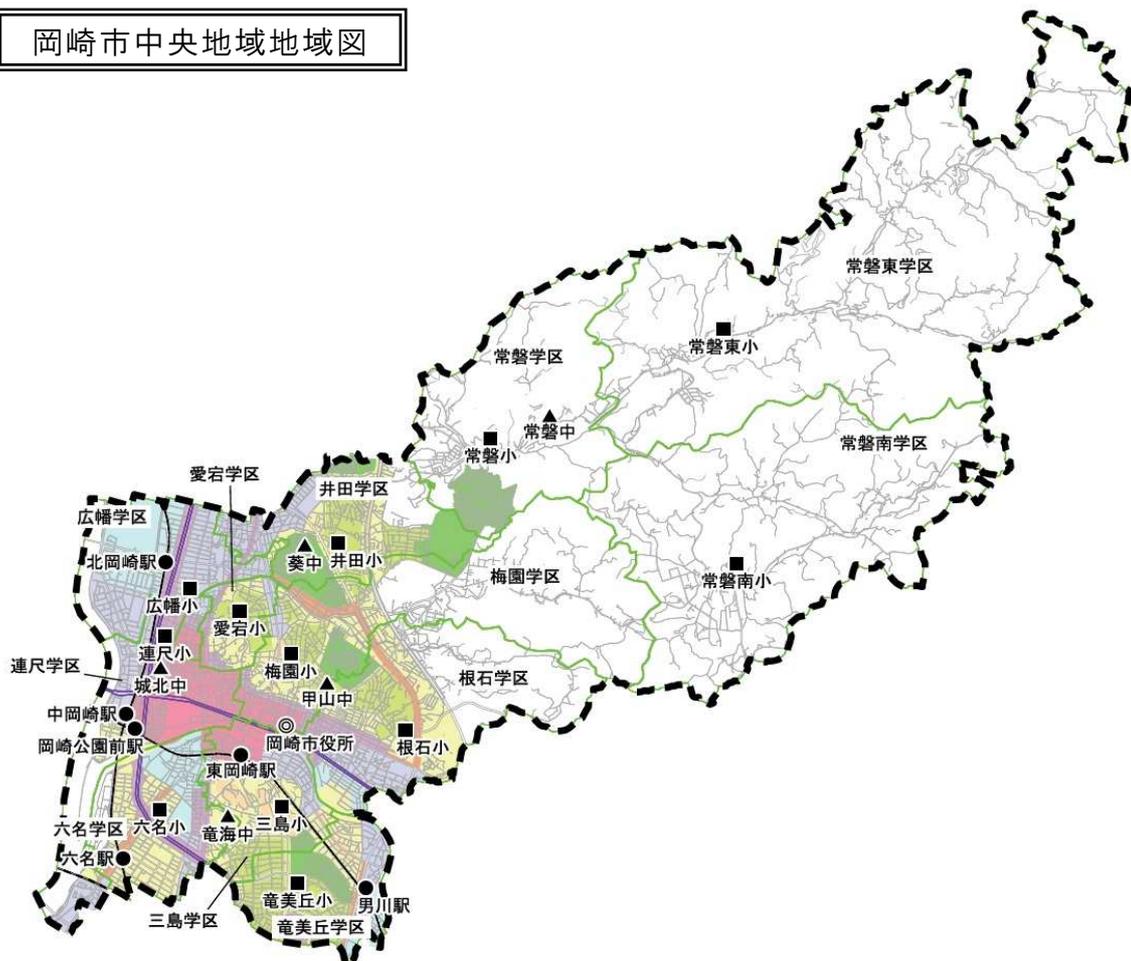
岡崎市地域図



中央地域の学区



岡崎市中央地域地域図



中央地域は、城下町として古くから発展してきた康生地区や名鉄東岡崎駅周辺地区を核とした地域西部に市街地が形成され、地域東部には、森林や河川などの豊かな自然が残されています。国道1号、国道248号などの幹線道路や名鉄名古屋本線、愛知環状鉄道などの鉄道が整備されており、広域交通の要衝としての機能を有している地域です。

また、市役所、岡崎げんき館（保健所）、図書館交流プラザ「りぶら」、愛知県西三河総合庁舎などの公共施設や大型商業施設が集積しており、優れた生活基盤を有しています。



名鉄東岡崎駅北口



岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」

事例集の見方

事例のスローガンを記載しています。

【学区名】事例のタイトル

| | |
|---|----|
| <p>《学区データ》 学区名：事例の実施学区名 世帯数：実施学区の世帯数 (平成26年3月1日現在)</p> <p>《団体データ》 団体名：事例の実施団体名 事業開始年度：紹介事例の開始年度</p> | 写真 |
|---|----|

◆取組のきっかけと経緯

どういう地域課題があり事例に取り組むことになったのか、そのきっかけや経緯について紹介しています。

◆事業内容

事例について、どのような活動を行っているのかを紹介しています。

◆成果

活動を行ったことにより、どのような成果を挙げることができたのかを紹介しています。

◆今後の展望・課題

活動について、現状抱えている課題や今後どのように活動を展開していきたいかについて、紹介しています。

こんな工夫をしています！

●事例における工夫点を一言で紹介
しています

→ 工夫している点について、具体的な内容を
紹介しています。

注目ポイント！

●事例における注目ポイントを一言
で紹介しています

→ 注目ポイントについて、具体的な内容を
紹介しています。

事例集目次

| | | |
|-------|-----------------------|----|
| 《事例1》 | 梅園学区 | |
| | 梅園学区子ども見守り活動 | 1 |
| 《事例2》 | 根石学区 | |
| | 根石声かけ隊 | 3 |
| 《事例3》 | 井田学区 | |
| | 井田学区ふれあいコンサート | 5 |
| 《事例4》 | 愛宕学区 | |
| | あたご夢のまちだより発行 | 7 |
| 《事例5》 | 広幡学区 | |
| | 地域巡回パトロール | 9 |
| 《事例6》 | 連尺学区 | |
| | 二七市 | 11 |
| 《事例7》 | 六名学区 | |
| | 学区広域防犯パトロール活動 | 13 |
| 《事例8》 | 三島学区 | |
| | ゴミ対策研修会・防災講演会 | 15 |
| 《事例9》 | 竜美丘学区 | |
| | 竜美っ子あん&あんクラブ防犯まちづくり活動 | 17 |

《事例10》常磐南学区

河川美化・草刈活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

《事例11》常磐東学区

常磐東学区いきいき祭り・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

《事例12》常磐学区

常磐学区町内花いっぱい活動・・・・・・・・・・・・ 23

《事例13》常磐学区

常磐学区町内一斉清掃・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

「できることをできるときに」をモットーに見守り活動

【梅園学区】梅園学区子ども見守り活動

《学区データ》

学区名：梅園学区

世帯数：5,525世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：梅園見守り隊

事業開始年度：平成17年度



◆取組のきっかけと経緯

梅園学区には、梅園小学校、愛知教育大学附属岡崎小学校、愛知教育大学附属養護学校と3つの学校があります。学区内では、以前から不審者や児童連れ去り未遂事件、通学中の交通事故などが起きており、また、全国的にもこうした事件は問題になっていました。こうした背景もあり、PTAの有志により、危険箇所を車で見回る活動を始めました。その後、学区外から徒歩やバスで通学している児童が多い梅園小学校以外の2校からも、梅園小学校の児童と同様に児童の登下校を見守って欲しいという要請がありました。そこで、平成18年1月に学区内の3校の児童の登下校の安全を見守るため、「梅園見守り隊」をPTAの呼びかけにより学区内の様々な団体の協力を得て379人で結成しました。

◆事業内容

隊員は活動する際には、反射ベスト、帽子、たすき、隊員証を身に付け、主に児童に付き添いながら一緒に登下校をする、決まったところで立ち登下校する児童を見守る、通勤ルートを見守るなど、隊員それぞれが無理のないように「できることをできるときに」をモットーに活動を行っています。隊員は平成25年4月現在で442人いますが、主に仕事を退職した隊員を中心に50人ほど毎日活動に参加しています。隊員証は、児童に安心してもらうという身分の保証をするだけでなく、小学校への入校許可証も兼ねています。

また、年4～5回梅園小学校の一斉下校の日に合わせて隊員が集まり児童と一緒に下校する活動も行っており、その際は多くの隊員が活動に参加しています。当日は青色回転灯パトロール隊とも協力し、下校時間に合わせて学区内を巡回しています。

さらに、年1回活動の情報交換の場として、「梅園見守り隊総会」を開催しており、活動中に気が付いたことや学区内の危険箇所の確認などの情報共有を行っています。また、「見守り隊通信」を月1回発行し、学校の行事予定や児童の下校時間の予定をお知らせするなど、見守り隊に関する活動の情報を隊員に向けて発信しており、隊員はその情報を基に活動をしています。

◆成果

隊員の毎日の継続的な活動や学区内の至るところへの梅園見守り隊の横断幕の設置など、防犯への啓発活動に取り組んだ結果、学区内の不審者や変質者などの数が減少しました。隊員の中には、一斉下校の最後の1人になる児童の家まで付き添うなど、熱心に活動に取り組んでいる隊員もあり、学区を挙げて実施した見守り隊の活動の成果といえます。

また、児童が日頃お世話になっている方へ感謝をする「ありがとうの会」にも見守り隊が招かれています。隊員にとっても、児童とふれあうことでやりがいを感じたり、活動を通して防犯意識を高めたりすることにつながっています。



◆今後の展望・課題

現在、毎日継続的に活動を行っている隊員の高齢化もあり、活動を継続的に行っていくためには、後継者を含め、新たに隊員を増やしていくことが必要です。そこで、児童の保護者に積極的に活動に参加してもらえるように努めています。孫の小学校入学を機に新たに活動に参加した方もおり、児童の関係者を始め、地域に参加者の輪を広げていきたいと考えています。

こんな工夫をしています！

●養護学校で「梅園見守り隊を知る会」を開催

→ 梅園学区には、愛知教育大学附属養護学校があり、見守り隊が登下校を安全に見守る活動を行っています。そこで、見守り隊の活動を広く知ってもらうために、「梅園見守り隊を知る会」を養護学校で開催しています。ベストを着用した隊員が児童の登下校の安全を見守っていることを伝え、不審者が出た時の対応を養護学校高等部の生徒、教員、見守り隊隊員による寸劇により教えています。

こうした活動により見守り隊の存在を理解してもらうことができ、養護学校の児童に安心して登下校を行ってもらうことができます。

注目ポイント！

●毎日継続して、学区内をまんべんなく見守る

→ 「できることをできるときに」をモットーに活動しているため、毎日継続して活動できる隊員は限られていますが、自分の住んでいる地域を中心にまんべんなく活動できるよう、毎日継続して活動できる隊員の中で暗黙の了解で区域を定め活動しており、学区内をまんべんなく見守ることができています。

働いている隊員は通勤ルートを見守るなどできる形で見守り活動に協力しており、また、バス通学の児童はバス停に先生が迎えに行くなど、学校とも連携を図りながら学区内の3校の児童が安全安心に登下校できるよう配慮して活動を行っています。

根石の子どもは根石で守る。誰でも、いつでも、どこでも。

【根石学区】根石声かけ隊

《学区データ》

学区名：根石学区

世帯数：5,667世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：根石声かけ隊

事業開始年度：平成15年度



◆取組のきっかけと経緯

平成15年当時、時代の移り変わりにより保護者がみな働きに出てしまっている家庭が増え、登下校時の子どもの見守りが難しくなっていることがPTAにおいても課題になっていました。地域において防犯意識を根付かせる意味でも、地域住民により小学生の登下校時の通学を見守ってもらうことはできないかという意見が出ました。そこで、PTAによる学区総代会への働きかけを皮切りに、平成15年12月に学区防災防犯協会連合会、根石小学校PTA、子ども会、根石小学校など諸団体による児童安全ボランティアの組織化に向けての協議が始まり、平成16年2月に「根石学区児童安全ボランティア」として会が発足しました。

その後、公募により会の名称を「根石声かけ隊」とし、「根石の子どもは根石で守る。誰でも、いつでも、どこでも」をモットーに、子どもの安全や地域の安全を目指して、地道な活動を継続して行っています。

◆事業内容

根石声かけ隊では、見守り活動として、「学童の登下校時の見守り活動（通年）」、「新入学児童の付添い下校（4月）」、「学童の付添い下校（年12回）」、「自転車前かごに防犯プレートを付けてのパトロール（通年）」、「青色回転灯パトロール（通年）」を行っており、学区随所に「根石の子どもは根石で守る」と書かれた横断幕を掲示しています。

また、広報活動として、「機関紙の発行（平成16年3月発行、平成25年3月に28号発行）」や「ホームページの開設（平成17年3月開設）」を行っています。

現在、地域住民である約400人の隊員が、自身の健康管理も兼ねて、散歩感覚で防犯パトロール活動に参加しています。また、隊員には毎年更新する身分証を配布します。隊員は、隊員



の証である身分証を身につけて、活動を行っています。

また、地域において防犯意識を根付かせるためには、子どもたちにも啓発を行うことが必要です。そこで、冬休みの宿題として防犯標語を募集するなどして、子どもたちにも防犯について考える機会を提供しています。

◆成果

見守り活動を行っていることにより、学区内における犯罪件数が活動を始める前に比べて減少しました。

また、防犯標語などにより子どもたちにも防犯について考える機会を提供したことで、子どもたち自身も防犯意識について自覚を持った行動をとれるようになりました。

さらに、隊員が身分証を付けて継続的に活動を行っているため、地域において「身分証を付けている人は安心だ」という意識が根付き、隊員に対する信頼度が高まりました。そのため、子どもたちや地域住民とも積極的にコミュニケーションをとることができるようになり、今では、根石学区の地域安全において、「根石声かけ隊」は欠かすことのできない存在になりました。



◆今後の展望・課題

根石声かけ隊では、自主性を重んじて活動を行っているため、人手が不足している区域が発生しています。地域住民からもこうした指摘がありますが、あくまで自主的な活動であるために、幅広い区域の方へ参加を呼び掛けていく必要があります。

こんな工夫をしています！

●隊員の自主性を重んじ、事務局で管理しない

→ 発足当初は、隊員の信頼が重要な活動であることや重点エリアに人員配置をしたいという考えから活動を管理することも考えましたが、活動が管理されてしまうことで、隊員に「やらされている感」が出てしまい、活動がつまらなくなってしまうという懸念がありました。そのため、隊員の自主性を尊重し、隊員が「空いた時間」に「無理なく」住んでいる区域で自主的に活動をしてもらうようにしています。

その結果、継続的な活動につながり、地域において活動が浸透していくことにもなりました。

注目ポイント！

●活動が隊員の生きがいとなっている

→ 隊員の多くは退職後の高齢者ですが、家にいるだけでは多くの人とコミュニケーションをとる機会もなかなかありません。しかし、身分証を身につけて活動を行うことで、子どもたちからも安心してもらえるため、登下校時に子どもたちの顔を見たり、話をしたりできます。そのことが、隊員にとっても生きがいとなっており、「活動をしたくて活動をしている」という感覚となり、逆に「活動をさせてくれてありがとう」という思いで活動をしています。

そのことが継続的な活動にもつながっているといえます。

学区の三世代の住民と一緒に楽しむことができるイベントの開催

【井田学区】井田学区ふれあいコンサート

《学区データ》

学区名：井田学区

世帯数：6,509世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：井田学区パパさんコーラス隊

事業開始年度：平成20年度



◆取組のきっかけと経緯

井田学区は、平成20年度から2年間、学校・地域と連携した家庭教育のための体制づくりを行う家庭教育推進モデル地区に指定され、事業を実施する助成金が交付されていました。実施する事業を学区社会教育委員会で検討したところ、学区の三世代の住民と一緒に楽しむことができるイベントとして、岡崎市シビックセンターコンサートホール・コロネットで行うこととなりました。

◆事業内容

ふれあいコンサートは、家庭教育推進モデル事業として平成20年度から例年2月の休日に開催しており、約300名が来場しています。

第1回目は、井田学区家庭教育推進協議会が主催し、井田学区総代会の後援により開催しました。出演団体は、井田小学校金管バンド部、井田学区パパさんコーラス隊、井田小PTA & OGコーラス、老人クラブ「童謡を歌う会」で、学区の三世代の住民が同じ舞台に立ちました。翌年も一部出演団体が変わりましたが、同規模で開催しました。しかし、もともとふれあいコンサートを開催するきっかけとなった家庭教育推進地区モデル事業が平成21年度で終了したこともあり、3回目以降の開催については検討をする必要がありました。関係者による検討の結果、折角2年続けて開催し地域にふれあいコンサートが根付きつつあるので、パパさんコーラス隊が会費から財源を捻出し、それを財源に3回目以降も開催することとなりました。



3回目以降も、出演団体は、井田小学校児童とパパさんコーラス隊を中心に、学区で活動している音楽に興じている団体なども巻き込みながら、内容を見直しながら開催し、平成25年度で6回目の開催となりました。

◆成果

ふれあいコンサートを開始して6年目を迎えましたが、学区の住民に定着してきました。2月になると、学区の住民から「もうふれあいコンサートの時期になったね」という声も聞くようになりました。初めは、開催自体難しいという反対の声も多くあり、ここまで続けることができるとは思っていませんでしたが、みんなで協力すればイベントを作りあげられることが分かり、結果的に学区にとって重要なイベントになりました。

また、小学生などの出演団体にとっては、日頃の練習の成果を披露するという点でも非常に重要な意味を持っており、普段はなかなか使用することのないコロナネットを使用していることも練習のモチベーションを高めることにつながっています。

◆今後の展望・課題

ふれあいコンサートを長年継続して開催していくためには、学区社会教育委員会が主体となり学区の年間行事に入れて行っていく必要があると感じており、今後どのように続けていくのかが一番の課題となっています。

また、ふれあいコンサートは音楽のイベントなので、音響や全体の構成など音楽に詳しい専門的なスタッフが必要です。専門知識を持った方にイベントに協力していただくことも、今後継続していくためには考えなければならない課題です。

こんな工夫をしています！

●学区の住民に楽しんでもらえる内

容を考え、コンサートを開催

→ コンサートを学区のイベントとして定着させるため、学区の住民に楽しんでもらえる内容となるように工夫をしています。

チラシや整理券、プログラムを手作りで作成、配布しています。また、当日のコンサートを撮影し、DVDとして出演者には配布をしています。さらに、来場者も楽しめるように、クイズを行ったり、最後に全員合唱を取り入れるなど、来場者もコンサートに参加できるように工夫をしています。

また、井田小学校のゆるキャラである「井田ッキー」もイベントに参加し、イベントを盛り上げると共に、より学区にこだわったイベントとなるようにしています。



井田ッキー

注目ポイント！

●学区の三世代の住民が楽しめるイ

ベントとなり、学区の風物詩に

→ ふれあいコンサートを開催することで、普段は接点を持つことのない学区の住民同士が関わりを持つことができるため、学区の住民のつながりを強化することができ、回を重ねるごとに、徐々に出演者も和気あいあいとした雰囲気となっていきました。また、ふれあいコンサートを通じて、小学校と学区の住民との関係も以前より近くなりました。

もともとのこだわりであった学区の三世代の住民と一緒に楽しむことができるコンサートとなったため、学区の住民にとっても1年の楽しみが増え、今ではふれあいコンサートは、井田学区に欠かせない風物詩となりました。

情報誌を通して、学区の住民がまちに魅力と愛着を感じて欲しい

【愛宕学区】 あたご夢のまちだより発行

《学区データ》

学区名：愛宕学区

世帯数：1,890世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：愛宕学区社会教育委員会

事業開始年度：平成19年度



◆取組のきっかけと経緯

愛宕学区社会教育委員会では、運動会、七夕祭、敬老会、球技大会、文化祭、新年交礼会など、年間を通じて数々の学区行事を主催しています。しかし、それぞれの行事の参加者はどちらかといえば固定的で、ある行事に参加されても、その他に学区社会教育委員会がどのような行事を行っているのかご存じない方も比較的多くいらっしゃいました。

また、学区社会教育委員会は、こうした学区行事の他にも様々な地域活動を行っています。そこで、参加者がそれらの活動を楽しんでいること、委員会組織がとても良い雰囲気で開催されていることなどを学区の住民にもっと知ってもらい、学区行事や地域活動に積極的に参加して欲しいという思いがありました。それは、学区の住民が自分たちのまちに魅力を感じ愛着を持ってもらいたいという思いでもあったことから、平成19年度に学区の情報誌『あたご夢のまちだより』を創刊しました。

◆事業内容

住民の方に愛宕学区社会教育委員会の活動を知っていただくために、主な年間行事の紹介や地域活動の報告を掲載した情報誌を発行しています。また、社会教育委員会関係の事業だけでなく、現在や昔の街並みや近隣の名所史跡などの紹介情報を掲載して、地域（学区）への理解を深めてもらうことを目指しています。

学区社会教育委員会青年部に所属する4名の編集委員を中心として誌面の立案、取材、編集を行っており、年度毎に1回のペースで情報誌を発行し学区内全戸に配布しています。

・主な定番記事

「愛宕学区温故知新」 一時代につれて変遷した、昔の街並みを紹介しています。

「文化祭の彩」 一毎年、学区社会教育委員会文化部を中心とした役員により文化祭の会場に装飾される、趣向を凝らした作品を紹介しています。

「てくてく探検隊日記」一学区内を歩いて散策し、見つけた新発見や再発見を紹介しています。

◆成果

多種多様な行事紹介や活動報告をひとつの誌面に掲載することで、愛宕学区社会教育委員会の事業全般を広く学区住民に周知することができるようになり、創刊前に比べて各種行事への参加者が増加しました。

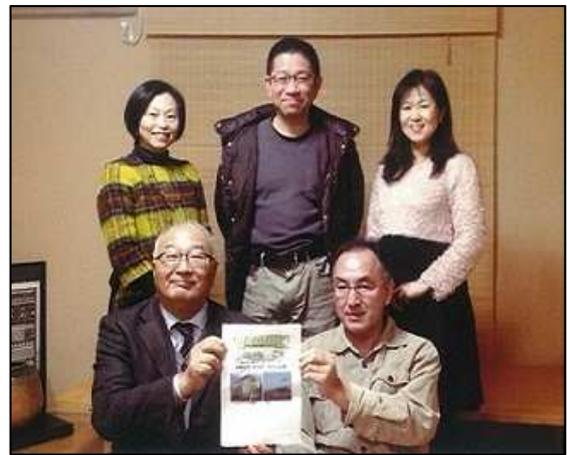
また、まちへの愛着と地域活動への理解が深まり、地域に貢献したいというボランティアや運営サポーターが行事をお手伝いして下さるようになったり、活動の楽しさや組織の雰囲気良さが理解されて、役員を快く引き受けていただける例もありました。

さらには、読んでいただいた方から「これだけのものをよく作った」というようなお褒めの言葉を頂戴したり、定番コーナーへ情報提供をして頂けるなどの直接的な反響もあり、委員会活動や広報誌の新刊発行に対するモチベーションの向上にも繋がっています。

◆今後の展望・課題

比較的狭い学区なので、地域の情報源には限りがあります。その中で多くの住民に引き続き興味深く愛読していただくために、新コーナーや新たな定番記事の創設などの今後に向けた誌面展開が求められます。

また、学区行事の参加者が最近では横ばい傾向にあるため、より多くの方に行事参加していただけるよう、情報誌により委員会組織と地域活動を一層盛り上げていく必要があります。



愛宕学区社教委員長の水野さんと編集を担当している委員

こんな工夫をしています！

●内容や構成に決まりはなく、自由な発想を大切にしています。

→ 情報誌の内容に決まりはありません。学区に住むすべての人を対象に発行しているため、若者から高齢者の方まで幅広い方の興味をひいて読んでもらえるように、4名の編集委員を中心に毎回工夫を凝らして立案から作成まで行っています。担当者が少人数だからこそ、自由な発想と強い責任感を持って制作ができています。

注目ポイント！

●カラー印刷で、学区内の全戸に配布しています。

→ 視覚に訴え、興味を持って読んで頂けるように、情報誌は全面カラーで印刷しています。そして、より読みやすく記事内容をイメージしやすいように、可能な限り多数の写真に掲載しています。古い写真などは地元住民の方に提供していただいています。

また、家庭でいつでも手に取って読んでいただけるよう、情報誌は全戸配布しており、平成24年度は1,894戸に配布しました。

総合的な視野で学区内の情報を集約し、パトロール活動を実施

【広幡学区】地域巡回パトロール

《学区データ》

学区名：広幡学区

世帯数：4,850世帯

(平成26年3月1日現在)

《団体データ》

団体名：広幡学区社会教育委員会青少年部

事業開始年度：昭和48年度



出典：<http://www.do-bohan.or.jp/jisyu/index.htm>

◆取組のきっかけと経緯

広幡学区では、複数の自主防犯活動団体が各地域でそれぞれの目的をもってパトロール活動を行っていました。しかし、広幡学区は市内有数の飲食店並びに遊戯店街を有しており、不審者や空き巣被害、窃盗など犯罪も市内で上位を争う件数であることや、学区内には小中学校に加え、幼稚園や高校もあります。そこで、未然に被害を防止する意味でも、総合的な視野で学区内の情報を集約し、色々な情報を吸い上げると共に、個々のパトロール活動の意見を調整する組織を立ち上げようということとなり、学区社会教育委員会青少年部が主導し、個々のパトロール活動は従来通り継続しながら、それとは別に、新たに地域巡回パトロールを開始しました。

◆事業内容

学区社会教育委員会によるパトロール活動は、学校が夏休みとなり、犯罪件数が増加する傾向にある7月から9月までの3ヶ月間に集中して行っています。

学区と言っても範囲は広く、地域によってパトロールの対象も異なることから、学区を7区域（伊賀北、元能見南、元能見北、井田、広幡、日名北、日名南）に分けて活動しています。学区社会教育委員会青少年部は38名（平成25年度）おり、年代も20代から70代と幅広いです。1区域あたり5～6人で活動を行っており、活動する時間についても、地域性が出ることから、地域のグループリーダーに任せています。パトロールを行う際は、反射ベスト、警棒、腕章を着用し、活動を行っています。

パトロールの内容については、中学校の生徒健全育成協議会などの関係機関と相談して決めており、非行防止のためのたまり場の確認や犯罪防止のための声かけ・挨拶運動を中心に活動し、危険箇所の確認も同時に行っています。

また、最近是小中高生の自転車の乗り方が危ないとの声が地域からあがっていることから、警察と連携して小学校で自転車教室を実施したり、横断歩道のないところを渡らないようにパトロール中に啓発活動も行っています。

活動を終えた10月には、活動中に気が付いたことなどを各地域の団体を集めて意見交換を行う結果報告会を行っています。地域性もありますが、危険箇所の確認など学区内において情報の共有を図り、出てきた要望を学区社会教育委員会青少年部でとりまとめ、関係機関に連絡をしています。

◆成果

パトロール活動を行うにあたり関係機関にも協力要請をしたところ、学校の前では先生が定期的に立ち番をしてくれるようになりました。また、子どもの遊び場となりそうだった危険なマンションの資材置き場についても管理会社と連絡をした結果、きれいに整理されました。このように、パトロール活動や啓発活動により直接的に状況が改善された他、学区内における防犯意識を高めることができました。

また、各地域におけるパトロール活動を行った結果、以前より犯罪件数も減少し、安全安心な地域を形成することができました。



出典：「みんなでつくろう安全・安心の街 地域安全

(愛知県、愛知県警察、愛知県防犯協会)」

◆今後の展望・課題

今後も学区内の防犯意識を高めるため、関係機関とも調整を行いながら、継続して活動を行っていきたいと考えています。人数や予算には限りがあるため、広く学区内での協力者を増やしていきながら、予算の範囲内でより効率的で効果の大きな活動を行っていきけるように努めていきたいと考えています。

こんな工夫をしています！

●総合的な視野で学区内の防犯情報を集約

→ 元々は各地域でパトロール隊を結成し、それぞれで活動をしていましたが、犯罪件数の多い地域であったこともあり、学区内の防犯情報を集約する組織の必要性を感じ、地域巡回パトロールが始まりました。
全体としては3ヶ月という限られた活動期間ですが、10月に行う結果報告会で情報交換を行い、これまで行うことができていなかった学区全域の防犯情報を共有する機会を設けることができたことにより、犯罪件数の減少や地域住民の防犯意識の向上を図ることができました。

注目ポイント！

●パトロールを通して、学区全体の一体感を強くする

→ 従来のように個々で活動をしていると、各地域における連帯感は高まりますが、学区全体として連携を図る機会がありませんでした。しかし、学区全体で地域巡回パトロールを行い、防犯という共通の目的を持って活動を行ったことで、学区のつながりが強化され、コミュニティとしての一体感がより一層強くなりました。
また、パトロールに際し、メンバー以外の住民からも自発的な協力者が出るなど、活動も地域に波及しており、今後より効果の高い活動へと発展していくことを期待しています。

会話も弾む人情朝市

【連尺学区】^{ふないち} 二七市

《学区データ》

学区名：連尺学区

世帯数：4,233世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：八幡町発展会 二七市部会

事業開始年度：昭和30年度



◆取組のきっかけと経緯

戦後間もなく、ヤミ露店市場が市内の様々な箇所に乱立していましたが、現在の八幡町周辺に“中央マーケット”として統合されました。売り手と買い手が身近にふれあい、素朴な会話を楽しみながら気楽に買い物ができる市場は当時の庶民に愛され大盛況でしたが、百貨店や大型店舗の誕生など、時代の変遷に伴い、解散となりました。

八幡町は市の中心部に位置しながら、隣接町の商業発展と比較し、立ち遅れてしまいました。しかし、町内の商業を振興し、以前のような活気にあふれた町にしたいという思いから、1955年に「八幡町発展会」が設立されました。発展会を中心に住民や出店者と協力への交渉を行った結果、大型の店舗とは異なった様式の、人情があふれ、楽しい雰囲気露店市場を二七市として再び開催するようになり、今年で開始から59年目となりました。

◆事業内容

毎月6回、2と7の付く日（2、7、12、17、22、27）の、午前9時～正午まで、連尺学区八幡町で朝市を開催しています。二七市開催中は、事務所に発展会の役員が常駐し、来場者及び出店者の安全を見守っていますが、交通事故などを防止するために八幡通りに車両通行止めの規制を行っており、ふれあいや買い物をゆったりと安心して楽しめるように配慮しています。また、付近の住民の方には、開催に伴う交通の不便や騒音、ごみ、においなど様々な理解と協力を依頼しており、誰もが開催を楽しみにできる環境づくりを地域をあげて取り組んでいます。

主催者である八幡町発展会二七市部会は来場する方に楽しんでもらうことを第一に考えています。そのため、多くの事業者が朝市に出店しやすいように、出店のための要件は設けていません。現在、46軒の露店が出店していますが、その販売品目は鮮魚、野菜/青果、植物、惣菜、菓子、乾物、衣類、雑貨など様々です。また、出店する業者も市内からだけではなく、近隣の豊田市や蒲郡市をはじめ、名古屋市や一色町など県内からたくさんの業者が二七市に出店しています。

二七市は人と物の一大交流の場として、地域においても欠かすことのできない「市」として継承・継続してきました。

◆成果

二七市にみえるお客さんの半数以上はご年配の方です。普段はなかなか外出をされない方でも二七市の日は外に出て、お話をすることを楽しみにしており、時には数十年來の同級生と再会することがあるなど、身近な買い物の場というだけでなく、地元のふれあいの場、元気を提供してくれる場として欠かせない存在になっています。

また、近隣の小学校の社会体験授業の受け入れを行っており、小学生が店番として働いたり、宣伝のポスターを作成したりと、実践的な計算や幅広い世代とのコミュニケーションを学ぶ場、日ごろの学習の成果を発表することができる貴重な存在となっています。

◆今後の展望・課題

現在、二七市にみえる方の年齢層は限定されつつあります。今後も二七市を存続させていくためにも、幅広い年代の方に来場してもらい、魅力を知っていただく必要があります。2015年は二七市の初開催から60年という節目を迎えるため、その記念に合わせ、これからも多くの人に愛され、来場してもらえるよう新たな催しを開催し、二七市を盛り上げたいと考えています。



また、地元の方だけでなく、市外や県外の方にも59年続く朝市に来場し、その雰囲気を感じていただきたいと思います。二と七の付く日には岡崎城などの観光名所だけでなく、二七市にも来てもらえるよう、市や市内の施設と協力しながら積極的な周知をしていきたいと考えています。

こんな工夫をしています！

● まちバス利用で地元以外からのア

クセスをサポート

→ 二七市を開催している八幡通りは、市内の中心部に位置しており、付近にはまちバスを含め多くのバス停があり、アクセスはとて良くなっています。

八幡町発展会はまちバス乗車券サービス店の加盟店になっており、車や自転車で来場することができない方でも、二七市を楽しみにして下さる方には気軽に立ち寄ってもらえるように希望する来場者の方には乗車券をお渡ししています。

注目ポイント！

● 1955年の設立から59年の歴史

→ 大型店舗に対抗する形で始まった二七市ですが、最も盛況だったころには、来場者数は毎回1万人を超え、出店店舗数は200軒、1日の売上も大型スーパーに匹敵するほどでした。現在は後継者不足などで出店店舗数は徐々に減少し、大型店舗との競合で来場者数も最盛期ほどではありませんが、出店する店舗の数は40以上、来場者は3000名を超えており、賑わいや活気は失われていません。

また、荒天時を除き、雨天であっても開催されます。こうした主催者と出店者の努力もあり、二七市は59年間続いています。

学区が一体となって防犯パトロール活動を行い、地域のつながりを強化

【六名学区】学区広域防犯パトロール活動

《学区データ》

学区名：六名学区

世帯数：5,542世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：六名学区防犯パトロール隊

事業開始年度：平成23年度



◆取組のきっかけと経緯

学区内の町ごとにパトロール隊を組織しているため、従来は、各町で定期的にパトロール活動を行っていました。

平成23年度に、日ごろから安全なまちづくり推進指導員として、警察とも関わりを持ちながら活動を行っていた長坂秀志六名学区総代会長が、学区内や警察に働きかけをし、防犯パトロール隊を組織している学区内6町合同により、夜間の学区広域防犯パトロール活動を行うこととなりました。

防犯パトロール活動は、学区内6町とともに、岡崎警察署の警察官（学区内の交番）とも協力して、活動を行っています。

◆事業内容

毎年、春から夏にかけて1回と年末に1回の計2回、夜間の学区広域防犯パトロール活動を行っています。

活動には、学区内6町の住民約80名と岡崎警察署の警察官6～8名が参加し、学区内を北・南東・南西の3ブロックに分け、徒歩や青色回転灯パトロール車によりパトロールします。活動には、岡崎警察署長や愛知県警幹部も参加することもあり、学区と警察とが一体となって行っています。

◆成果

従来の防犯パトロール活動は、自分の町内だけの活動にとどまり、各町が独自に行っていましたが、学区として広域にわたり防犯パトロール活動を展開することで、自分の住んでいる町以外にも回るようになります。そのことにより、学区としてまとまる意識が高まり、地域として一体感が生まれてきました。地域ぐるみで活動を行っていることで、実施回数は今までと一緒でも、効果は2倍、3倍に膨れ上がっています。

また、日常生活の中ではなかなか交番勤務の警察官と地域住民が接する機会がありませんが、こうした防犯パトロール活動を通じて、お互いを知る機会となり、交流を図るきっかけにもな

っています。学区内の安全安心を推進していく意味でも、地域と警察とがつながりを持つことはとても大きな効果があります。

さらに、こうした6町合同の防犯パトロール活動を行ったことにより各町の防犯パトロール隊も感化され、各町で定期的に行っている防犯パトロール活動を隣接する町も含めた活動に広げており、通常の活動における効果も倍増しています。

◆今後の展望・課題

六名学区では、年2回の防犯パトロール隊を組織する6町合同による学区広域防犯パトロール活動により、学区内の町を越えたつながりと地域の一体感を生み出すことができましたが、現在学区内のすべての町が防犯パトロール隊を組織している訳ではありません。

こうした学区内の複数の町の合同による防犯パトロール活動により生み出された効果を、より学区内に浸透させていくためにも、複数の町による組織化も含め、学区内のすべての町が防犯パトロール隊を持っている状況を作り、学区広域防犯パトロール活動を促進していくことにより、より一層学区内における地域のつながりや一体感を強化していきたいと考えています。

こんな工夫をしています！

●町名を書いたのぼり旗を持って活

動し、町民の防犯意識を啓発する

→ 6町合同による学区広域防犯パトロール活動を始めた2年目（平成24年）に、各町の町名を書いたのぼり旗を作りました。

防犯パトロール活動を行う際にのぼり旗を持って行うことで、町民にも「私の住んでいる町はこんな活動をしているんだ」と活動を認知してもらうことができ、町民の防犯意識の啓発を促進することにつながっています。



注目ポイント！

●地域のつながりが広がったことで、

波及効果も

→ 今までは、町ごとにそれぞれが防犯パトロール活動を行っており、なかなか学区内の町同士がつながりを持つ機会もありませんでした。しかし、こうした6町合同で防犯パトロール活動を行う機会が生まれたことにより、学区内の多くの町につながりが生まれ、防犯パトロール活動にとどまらず、防災訓練など別の活動も町を越えて行うといった波及効果が生まれました。

防犯や防災は、学区内の地域が一丸となって取り組む必要がある分野であり、こうして学区内の多くの町が一体となって活動が広がっていることは、とても意味の大きなものであるといえます。

地域におけるごみ減量や分別に対する意識と防災意識の向上を

【三島学区】ゴミ対策研修会・防災講演会

《学区データ》

学区名：三島学区

世帯数：4,302世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：三島学区総代会

事業開始年度：平成25年度



◆取組のきっかけと経緯

①ゴミ対策研修会

市役所環境部ごみ対策課から、各学区においてゴミ対策研修会の開催依頼があったため、三島学区の意識も低かったこと、また過去に一度も開催したことが無かったことから開催しました。

②防災講演会

三島学区在住の「あおぞらの会」代表志村さんがボランティア活動に熱心であり、東日本大震災のボランティア活動中に知りあった宮城県石巻市北上中学校前校長畠山氏に、実体験を語っていただき、三島学区の防災意識を高めるために講演会の開催を依頼しました。

◆事業内容

①ゴミ対策研修会

- ・ 学区美化活動の一環としてゴミ対策研修会の実施
- ・ 開催日：平成25年6月9日実施（平成24年実績有）
- ・ 講師：ごみ対策課課長
- ・ 出席者：総代18名。各町ゴミ減量推進員20名。合計38名。

②防災講演会

- ・ 防災意識を高めるため、東日本大震災現場実体験談を語る講演会の開催。
- ・ 開催日：平成25年11月15日
- ・ 講師：宮城県石巻市北上中学校前校長畠山卓也氏
- ・ 出席者：三島小学校児童208名。三島学区民及びその他学区民含め107名。合計315名。

◆成果

・三島学区は土地が高いという立地条件から、防災意識があまり高くありませんでしたが、講演会開催後は、学区の市民の防災意識が向上しました。実際に震災を目の当たりにした実体験の講演であったため、防災への取組に対する講演は説得力が有り、防災意識の向上を図るには十分でした。

・ごみ減量推進員は毎年代わる町もあり、今までは統一した考え方がありませんでした。しかし、研修会後は、統一した取扱いを図ることができました。

◆今後の展望・課題

他学区及び他町からの不法投棄防止対策が課題です。

2年連続でゴミ対策研修会を実施した結果、学区民の意識の向上が見受けられるため、今後も可能な限り続行していきたいと考えています。



こんな工夫をしています！

●子どものうちから防災意識を高め

地域における防災意識の向上を図

った！

→ 研修会及び講演会に参加することが重要であるため、総代から「かいらん」による周知を図りました。

学校からは高学年の生徒への参加を促すことで、子どものうちから防災意識を高め地域における防災意識の向上を図っていきます。

注目ポイント！

●講習会実施後、ごみ減量や分別に対

する意識が向上した！

→ ごみ減量推進員は1年の任期の方が多いため、ごみの分別やごみ出しの徹底が課題でしたが、講演会に参加し講演を直接聞くことで、ごみ減量や分別に対する意識が変わり、ごみ分別とごみ出しが改善され、学区民の意識の徹底を図ることにつながってきています。

安全で安心して暮らせる地域をつくるために、子どもたちを見守り、育む

【竜美丘学区】竜美っ子あん&あんクラブ

防犯まちづくり活動

《学区データ》

学区名：竜美丘学区
世帯数：5,820世帯
(平成26年3月1日現在)

《団体データ》

団体名：①竜美っ子あん&あんクラブ
②竜美丘自主防犯パトロール隊
事業開始年度：平成22年度



◆取組のきっかけと経緯

平成17年に学区総代会が所管する竜美丘自主防犯パトロール隊が結成され、地域の安全安心と防犯を目的として、青色回転灯、散歩、愛犬、自転車など各種のパトロールを行っていました。その後、竜美丘自主防犯パトロール隊が学区福祉委員会の所管となると、全国的に小学生の登下校における事故が多発していたことや、学区内で不審者が多く確認されていたため、児童の登下校の見守り活動に特化した新たなパトロール隊の結成を検討するようになりました。

そうしたなか、岡崎まち育てセンター・りた^{※1}が防犯まちづくりに関するモデル地区^{※2}として竜美丘学区と事業を実施することとなり、そのなかで児童の登下校の見守り活動を行う竜美っ子あん&あんクラブを立ち上げました。

※1 市の中間支援組織として、地域交流センターの運営などを行っている特定非営利活動法人

※2 りたが独立行政法人 科学技術振興機構から委託した、「犯罪からの子どもの安全」を目的とした、「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」のためのプロジェクトに関するモデル地区

◆事業内容

P T Aや学区福祉委員会を中心に、老人クラブや学区内の事業者などが隊員となり、登下校時を中心に児童の安全を見守っています。平成23年度からは新入学時に生徒の保護者が必ず隊員となるようになり、竜美っ子あん&あんクラブが地域全体に浸透していく仕組みづくりができました。また、隊員には小学校に入校する際の身分証を兼ねた隊員証が発行され、活動時には必ず身に付けるようにしており、児童や保護者に安心してもらえるように配慮をしています。

自主防犯パトロール隊の青色回転灯パトロールは、竜美っ子あん&あんクラブの活動も兼務しており、各学期の終業式の日には合同パトロールとして10台を超える青パトと一斉下校を行っています。

◆成果

活動前に比べ小学校周辺の不審者の数が減っており、パトロールや見守り活動の成果が出ています。さらに、全校集会やPTA総会などで竜美っ子あん＆あんクラブや竜美丘自主防犯パトロール隊の活動の案内や紹介による周知を行った結果、活動が地域に浸透し、活動中に児童や保護者に挨拶やお礼を言われる機会が増え、隊員のやりがいにつながるなど、防犯以外の成果も出ています。

また、パトロールの報告などを基にPTAがあん＆あんマップを作成しており、毎年マップが更新され、児童の集合場所が変更されるなど、活動の結果が生かされています。また、登下校時だけでなく、全般的な児童の安全安心を願う声が上がった結果、昼間でも高い木々で覆われて薄暗かった竜美丘公園を地元町内会の協力のもと、自然豊かな公園として整備し、保護者も安心できる子どもの遊び場の提供をすることができました。

◆今後の展望・課題

各学期の終業式の日のご合同パトロールには多くの参加者が集まりますが、普段の活動は限られた人しか参加できていません。また、竜美っ子あん＆あんクラブはPTAや学区福祉委員会を中心に活動していますが、隊員や役員の年齢も徐々に上がっています。今後も継続して活動を行い、地域の安全安心を維持していくためにも、より若い世代の方に積極的に参加してもらうなど、活動の後継者を探していく必要があります。



こんな工夫をしています！

●ローテーションを組んで活動を絶

やさない！

→ 現在、竜美丘学区では青パトを23台登録しており、全ての車が1回1時間程度のパトロールを少なくとも、週1度以上行っています。

また、日曜日を除き、町内会ごとに月・水・金／火・木・土というように出動する日を決めており、活動する日が重複し過ぎたり、手薄になり過ぎないように連携を取りながら、すき間なく学区全体を見守っています。

注目ポイント！

●地域ぐるみで登下校時の安全安心

を醸成

→ 竜美っ子あん＆あんクラブの隊員はPTAや福祉委員会、老人会の会員だけではありません。

地域の事業者や自営業の方にも隊員になっていただき、小学校近隣の事業者には下校時に事業所の前に立つなど、児童の安全な下校の見守りをいただいています。特に、こども110番の家に指定されている事業者のほとんどが協力をしてくれており、地域の大人が一丸となり子どもの安全を願い活動をしています。

地域が一体となって、自分たちのまちをきれいにする

【常磐南学区】河川美化・草刈活動

《学区データ》

学区名：常磐南学区

世帯数：422世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：①岩中町

②大井野川を美しくする会

事業開始年度：②昭和57年度



◆取組のきっかけと経緯

岩中町では、長年にわたり町内の全世帯の参加による一斉の道路と河川の清掃を行っています。岩中町の住民の多くが農業従事者であり、もともとは各自で自分の田畑に行くためのあぜ道の草刈を行っていましたが、町民が共同で使用する道も町内で草刈をしようということとなり、自主的な活動として始まったのがきっかけでした。

次に大井野町では、町内全世帯が会員となり活動を行っている大井野川を美しくする会が主体となり、大井野川と川沿いの道路の清掃を行っています。もともと町として道役（道路清掃）は年1回行っていましたが、大井野町も住民の多くが農業従事者ということもあり、大井野川の草刈などは農業の開始に合わせ、各自で行っていましたが、しかし、町としても大井野川をきれいにしようということで、昭和57年5月1日に大井野川を美しくする会を結成し、道役も合わせて年1回清掃活動を行うこととなりました。

◆事業内容

岩中町では、道役を春（6月第3日曜日）と秋（9月最終日曜日）の年2回、河川美化活動（7月第2日曜日）を年1回の計3回町の行事として行っています。活動は、主に草刈機や鎌を使用した草刈や道路にはみ出した枝の剪定をしており、町内の全35世帯が協力して各区域を清掃しています。当日都合が悪い住民も事前に決められた区域を清掃し、町内会が一体となり活動を行っています。また、高齢者のみの世帯も実施日に合わせて違う地域に住んでいる子どもが帰ってきて清掃に参加するなど、町民が高い意識を持って活動を行っています。

また、大井野川を美しくする会では、年1回（8月第4日曜日）美しい川を守るため、川の周りや川沿いの道路の草刈やゴミ拾いを中心に、町内一斉の河川美化活動を行っています。活動には町内の全49世帯が参加しており、各自決められた区域を午前中半日かけて清掃し、午後は公民館で懇親会を行っています。

こうした活動以外にも、役員による河川パトロールや町民が参加する総会などを行い、美し

い大井野川を守り、住みよい町づくりを進めるために努めています。

◆成果

岩中町では、草刈や道路にはみ出した枝の剪定を行うことで、道路の見通しがよくなり、交通安全に役立っています。また、道路は児童の通学路になっているため、安全な登下校をするためにも効果があります。

また、平成25年に市内で放火事件が発生しましたが、定期的に草刈や道路の清掃を行うことで、町内の防犯にも役立っています。

大井野川を美しくする会では、町民が一体となって清掃し、また活動後に懇親会を行うこともあり、町として連携を図ることができ、一体感が高まっています。町内一斉の河川美化活動にも、全世帯の約95%が参加しています。

また、時々川沿いに洗濯機などの不法投棄が見られますが、一度放置すると次々と持ち込まれてしまいます。しかし、こうした清掃活動や河川パトロールを定期的に行い、不法投棄を見つけ次第素早く対処することで、川の景観を保つことができます。

◆今後の展望・課題

岩中町では、今後清掃に参加することが難しい高齢者の1人世帯が増えることが考えられるため、活動の参加者が限られてしまうことが懸念されます。

大井野川を美しくする会では、道路清掃時に側溝の枯葉を清掃していますが、自力でグレーチングを外せず一部清掃ができない箇所があるため、今後の課題となっています。

また、慣例的に町内一斉の河川美化活動は年1回の開催となっていますが、状況に応じて回数を増やす必要もあると思うので、今後回数についても検討していく必要があります。

こんな工夫をしています！

●日程や担当区域を工夫し決めるこ

とで、もれなく地域内を清掃

→ 岩中町では、道役や河川美化活動の日程を決める際に、農作業の繁忙期を調整しながら決めることで、多くの住民が活動に参加することができます。また、担当区域が決まっていることで、当日参加できない住民が事前に清掃することができます。

大井野川を美しくする会でも同様に、日程が慣例的に定まっており、各自農作業に合わせて担当箇所の清掃をしながら、集大成として8月に町内全域を清掃します。

そのため、どちらの町内ももれなく地域内を清掃でき、きれいに保つことができます。

注目ポイント！

●町内の住民が高い意識を持ち、清掃

活動を実施

→ 岩中町も大井野川を美しくする会も、一斉清掃の際には、町内全世帯に参加を呼び掛けていますが、どちらの町内も地域住民の協力により、非常に高い参加率となっています。また、当日都合により参加できない住民も、別の日に決められた区域を清掃しています。

このように、どちらの町内も住民が高い意識を持ち、地域内で連携を図りながら自分たちの生活に欠かすことのできない町内の道路や川をきれいにするための活動を行っており、地域の一体感が生かされています。

世代を超えて地域のつながりを生み出す

【常磐東学区】常磐東学区いきいき祭り

《学区データ》

学区名：常磐東学区

世帯数：443世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：①常磐東学区社会教育委員会

②常磐東学区福祉委員会

事業開始年度：平成22年度



◆取組のきっかけと経緯

常磐東学区福祉委員会は、常磐東学区社会教育委員会の下部に位置する組織で、月1回市民ホームなどで地域の高齢者を対象に体操やレクリエーションなどを行ういきいきクラブを行ったり、独居老人激励訪問や常磐3学区合同で福祉講座や懇親会を実施しています。

常磐東学区いきいき祭りは、平成22年度から福祉事業の一つとして、地域の住民が集まり交流できる企画をすることと、学区福祉委員会で行っている事業について地域の住民に理解をってもらうことを目的として、学区社会教育委員会と学区福祉委員会の共催により開催することとなりました。

◆事業内容

いきいき祭りは、年を経るごとに実施内容を工夫し、変更しながら行ってきました。1年目となる平成22年度は、学区の75歳以上の敬老者を対象にご飯を薪で炊きおにぎりを作り、さんまやしし汁、とろろを提供しました。準備や配膳などには、学区の消防団やPTA、福祉委員の家族などの協力を得て行いました。こうした炊き出しは災害時の訓練も兼ねて実施しており、どれくらいの量を作ればよいのかが分かるほか、子どもにも炊き出しの様子を見てもらうことで、防災意識を高めてもらう狙いもありました。しかし、地域のコミュニケーションを高めるためには、地域の幅広い年代の方に参加してもらう必要があります。そこで、2年目以降は、グランドゴルフに参加している高齢者など少し参加対象の年齢を広げ、3年目には、世代を超えた交流を図る目的で、小中学生も参加対象としました。その間に、メニューも参加対象の年代の方に楽しんでもらえるものへと工夫し、見直してきました。

そして、4年目を迎えた平成25年度には、9月に行う敬老会といきいき祭りを同日にセットで行うこととし、午前中に敬老会、午後にいきいき祭りを開催しました。そうすることで、敬老会の参加者はもちろん、その家族など地域の幅広い世代の方に参加をしてもらうことができ、参加者は約330人となりました。

メニューも、炊き出し昼食、太鼓演奏、映画上映、囲碁・将棋・ウッドカーリングなどのレクリエーションを行い、最後に地元の事業者や商店、地元住民の協賛により景品を多数用意した夢の大抽選会を実施しました。また、開催時期が防災シーズンであるため、起震車が来校し、地域が一体となって楽しみながら福祉や防災について体感できるイベントとなりました。

◆成果

いきいき祭りを開始して4年が経ちますが、毎年内容を見直し、工夫しながら参加者を拡大し、地域を巻き込んで開催してきたことで、地域住民にイベントが定着してきました。また、参加者を子どもから高齢者まで広げたことで、地域住民が世代を超えて交流を図ることができ、地域福祉を向上させると共に、地域のコミュニケーション力を高めることができました。

さらに、子どもが小さい時から参加することで、よりいきいき祭りが地域に根差したイベントとなり、将来的にもイベントを続けていくための礎を築くことができました。

◆今後の展望・課題

天候も踏まえ、どの時期に開催するのが望ましいのかを検討していくと共に、より多くの地域住民の方に参加していただけるよう、現在参加率の少ない50～60歳代の世代の方にイベントに参加してもらえるようなメニューを考えていく必要があります。

また、イベントの目玉となるメニューを生み出すことも必要です。平成25年度に実施した「夢の大抽選会」が盛況だったため、今後は地域住民が作った米などをもっと景品として提供し、地産地消に役立てたり、協賛してくれる事業者や商店の数も増やすことで、より盛り上がる目玉メニューとなるように工夫をしていく必要があります。

こんな工夫をしています！

●楽しみながら福祉や防災意識を高める！

→ いきいき祭りは、さまざまな工夫をこらしたメニューにより、地域の幅広い世代の方に楽しんでもらっています。

しかし、ただ楽しむだけではなく、地域の子どもから高齢者まで幅広い世代の方が一緒になってレクリエーションを行ったり、炊き出しを体験することで、地域のつながりを強化するだけでなく、「地域のお祭り」というイメージで楽しみながらも、福祉や防災について自然と意識を高めることができている、災害時のいざというときにも役立つように工夫しています。

注目ポイント！

●地域が一体となって行う一大イベントへ

→ いきいき祭りは開始して4年経ちましたが、年々参加者が増加しており、多くの地元住民の協力によりメニューを見直しながら地域をあげて開催していますが、地域住民の協力だけにとどまらず、夢の大抽選会では、学区内の事業者や商店の協賛も得るなど、市民と事業者が協働してイベントを実施しています。

地域住民のみならず、地域内に事務所を構える事業者なども巻き込んで行うことで、本当の意味で地域が一体となって行える地域の一大イベントとなることを期待しています。

花の育成を通じて、地域のふれあいを推進

【常磐学区】常磐学区町内花いっぱい活動

《学区データ》

学区名：常磐学区

世帯数：1,570世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：滝町町内会

事業開始年度：平成23年度



◆取組のきっかけと経緯

高齢者の中には熱心に町内会などの行事に参加し、地域との関係を密にしている人がいる一方で、趣味が多様化して頻繁に外出していたり、ほとんど外出をしないで家に引き籠りがちになっているため、地域とのつながりが薄くなってしまいう人も少なくありません。滝町もその例外ではありませんでした。そこで、滝町を高齢者が活発で元気な町にしていくために、どんな方でも気軽に参加ができ、地域とのつながりを持っていただける活動、高齢者が安心して集える場所の提供ができる活動として、平成23年から本事業が開始されました。

◆事業内容

常磐小学校と滝町町内会が連携しており、環境委員会の児童が花の苗を育て、育てた苗を滝町内の13地区に引き渡しをしています。花の種や苗などの費用は町内会が負担をしていますが、現在では学校行事として定着しつつあります。受け取った花の苗は、学区市民ホームやバス停などの公共施設を中心に滝町内約40カ所に設置されているプランターで、地域の住民により大切に育てられています。

草取りや水やりなどの花の管理は、主に地域の高齢者がしており、子どもから高齢者まで多くの住民がきれいな町づくりに参加しています。

◆成果

小学校から引き渡された花は地域の高齢者が中心となって管理しているため、管理をするにあたり住民同士がふれあう場ができています。他の町内行事に長時間参加することができない方でも花の世話で



あれば気軽に手伝っていただけるため、身近な交流の場として重要な役割を果たしています。

特に、高齢者が単身で住む世帯や、ほとんど外出をされない世帯の住民に花の管理をしていただくことは、地域の安心にもつながっています。



◆今後の展望・課題

花は天候や気象状況に大きな影響を受けてしまいます。猛暑の場合は頻繁に水を与えなければならず、炎天下の作業も必要になることから、地域間で花持ちや育成状況に差が生じてしまいます。また、苗自体も日照条件で年により思うように育たないこともあります。今後も継続して活動を行い、滝町だけでなく、常磐学区全体をふれあいが多く花がいっぱいの明るい地域にしていきたいです。

こんな工夫をしています！

● 児童の手で直接地域に引き渡し

→ 花の苗を地域に渡す際には、常磐小学校で引き渡し式を開催しており、地域の住民は児童が育てた苗を直接受け取ることで、引き続き大切に育てようという意識を持つことができます。

また、児童は自分たちが育て上げたものが、実際に引き渡される光景を見ることにより、地域に貢献できていると実感することができ、次回の苗づくりへのやりがいにつながっています。

注目ポイント！

● 花で町内の季節感を演出

→ きれいな花が町内にたくさんあることにより町を明るく、華やかにしてくれるなどの効果があります。

また、本事業では児童が季節に合った苗を育てており、プランターの花は年2、3度交換します。公共施設を中心にプランターを設置しているため、世話をしている児童や地域の住民だけでなく、多くの方が花を見ることにより季節を感じることができます。

自分たちの町は自分たちの手でつくっていく

【常磐学区】常磐学区町内一斉清掃

《学区データ》

学区名：常磐学区

世帯数：1,570世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：滝新町町内会

事業開始年度：昭和52年度



◆取組のきっかけと経緯

社会情勢の変化に伴い、だんだんと近隣に住んでいる人同士の付き合いもなくなり、「地域のつながり」に対して不安がありました。そこで、せめて月1回は近隣に住んでいる住民同士で顔を合わせ、交流をする機会が必要だということとなり、住んでいる地域をきれいにする目的も兼ねて、昭和52年6月から滝新町町内会の町内一斉清掃が始まりました。

「自分たちの町は自分たちの手でつくっていこう」という主旨により、以後活動を継続して行っています。

◆事業内容

町内一斉清掃は、毎月第3日曜日午前8時から1時間程度行っています。

滝新町町内会は、町内を12の区に分け、さらにそれぞれの区もいくつかの組に分かれる形で組織されています。清掃活動は主に区ごとに行われており、活動場所も区単位で分かれています。区の中で区長を中心に、組単位で担当箇所（公園、街路、側溝、トイレなど）を分担し、清掃をしています。担当箇所は月ごとにローテーションをしており、毎月清掃場所が変わっていきます。

参加者は、全戸1人は参加するようにしています。高齢者のみの世帯で、体力的に清掃活動に不安がある場合は、清掃活動は行わずに、顔だけは見せるようにしています。

こうして、滝新町の住民のほとんどの世帯が何らかの形で活動に参加することとなります。

また、年1回は子ども会も活動に参加しており、地域の子どもから高齢者まで、幅広い年代の住民が、世代を超えて清掃活動を行っています。



◆成果

このような清掃活動を継続的に月1回行っていることで、近隣住民同士が顔を合わせ、世間話をしながら近況報告などの情報交換を行うことができます。また、地域をきれいにするという共通の目的を持って清掃活動と一緒にを行うことにより、町内が常にきれいな状態で保たれるとともに、自然と地域のつながりが強化され、地域に一体感が生まれています。地域の一体感を生み出したことにより、防災や防犯においても非常に効果をあげることができています。

また、年2回ほど、市役所環境部ごみ対策課職員による「ゴミ講習会」を行っており、総代、区長、組長、環境衛生担当者が参加しています。ごみの分別方法やごみの出し方に対する住民への指導方法のアドバイスを学べることで、地域内のごみに対する意識を高めることができます。

◆今後の展望・課題

現在、多くの世帯の住民が活動に参加をしていますが、参加しない世帯もあります。参加しない世帯は1人暮らし世帯など、地域と関わりの薄い世帯が多いです。そこで、ただ参加してくださいというのではなく、一度直接会って、防災や防犯など、地域とのつながりを持つことの大切さや必要性について話をし、納得いただいた上で活動に参加していただけるように試みています。

こんな工夫をしています！

●細分化された組織により、連絡や役割

分担を徹底！

→ 「事業内容」で説明をしたように、滝新町は町内会の下に区、その下に組と組織が細分化されています。町内一斉清掃では、こうした細分化された組織体制を生かし、清掃場所を区で割り当て、さらにその区域内を組単位で役割分担し、清掃を行うことで、地域住民の不満を生むことなく、地域内をまんべんなく清掃することができます。

また、所用により参加できない場合や雨天により活動が中止する場合も、区長を中心に区域内で円滑に連絡調整を行うことができ、地域のつながりを強化することにつながっています。

注目ポイント！

●何でも市に頼らず、自分たちの町を

自分たちでつくろうという地域性

→ 町内一斉清掃の時や日常生活において、地域内の公共物などが破損しているのを発見することがあります。そういう時には、何でも始めから市に頼るのではなく、まずは自分たちで修理できないかを考え、行動しています。見た目がきれいでなくても、自分たちで修理したことに意味があると考えています。

自分たちの手で町内をきれいにしようという意義を持って活動している町内一斉清掃などにより築き上げた地域の一体感を生かして、地域内で「自分たちの町は自分たちでつくろう」という強い意識を持ち、さまざまな活動を行っています。

平成 25 年度版 岡崎市地域活動事例集 中央地域

発 行 日：平成 26 年 3 月

編集・発行：岡崎市市民生活部市民協働推進課

〒444-8601

岡崎市十王町二丁目 9 番地

電 話：0564-23-6491

F A X：0564-23-6667

E-mail：shiminkyodo@city.okazaki.aichi.jp

